

§ 1 団委員研修所について

【目標】

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 団委員研修所の目的と目標について理解する。
2. 団委員研修所の運営について理解する。

【指導上のねらい】

1. 団委員研修所の目的と目標について理解させ、参加意欲を高める。
2. 団委員研修所の運営は学習面、生活面をグループ単位で実施することを理解させる。
3. オリエンテーションを行い、生活面の留意点などを理解させる。

【セッションの展開】

1. セッションの概要と展望

- (1) 団委員研修所の目的と目標を明確に示す。
- (2) 団委員研修所の運営方法について説明し、確認する。

2. 展開

(1) 歓迎の言葉 (2分)

緊張をほぐしながら、参加への感謝、高萩スカウトフィールドの設立経緯などを含みながら話す。

(2) オリエンテーション (郡司) (10分)

【➡資料：オリエンテーション・ノート】

ノートに沿って指示をする。

(3) スタッフの紹介 (各1分/人 計6分)

【➡資料：スタッフ紹介票、参加者班編制表 (G名と氏名のみ)】

スタッフの紹介用紙を配付し、それに沿いながら、まず所長からざっと自己紹介し、その後各所員・QM・AQMが自己紹介をする。

→特に、自分が得意とする部門(団委員会含む)も表明する。

(4) 参加者の紹介 (各30秒/人 計6分)

参加者のグループ編成表を配付し、それに沿いながら、1人30秒以内で「氏名、所属団、入所目的と座右の銘、呼ばれたいニックネームとその理由」を自己紹介をする。

・・・ということで「よろしくお願ひ致します」

(4) 団委員研修所の目的と目標 (30分)

【➡冊子：教育規程】

改めて「教育規定」を出してもらい、順に条文を読み、確認をしながら進める。

①教育規程 第8章 8-3-9

(訓練機関(集合訓練)の指導要員の資格と選任) → P.162

開設責任者→「関東第22期は、埼玉、群馬、栃木、茨城の北関東4県連の合同開設で、今年は茨城が担当県連」

担当：

第1日 10:30~11:00 (30分)

●準備品(資料・資料)

- ・日程表
- ・日本連盟規程集
- ・スタッフ紹介票
- ・参加者班編制表 (G名と氏名のみ)

●留意点

- ①所長が担当。
- ②アイスブレイキングゲームを取り入れ、リラックス出来る雰囲気の中でセッションを展開する。
- ③この研修所の性格上、年輩の参加者が比較的多くなるため、展開に当たっては、随時休憩を設け、展開速度にも十分留意すること。
(以下全てのセッションに共通します。)

指導要員の資格

所長 → リーダートレーナー（開設責任者が選定し、日本連盟が委嘱する）

所員 → リーダートレーナー、副リーダートレーナー（所長が選定し開設責任者が関係県連盟と調整のうえ委嘱する）

②教育規程 第8章、8-13、8-13-3（団委員研修所）

8-3-5 → 「団委員研修所は、導入訓練課程の訓練を修了した者を対象として開設し、参加者が団指導者としての任務を理解し、団の管理と運営の能力を高めることを目的とする。」（P.162）

8-9 → 「団委員基礎訓練課程の訓練は、団委員研修所をもって行う。」（P.91）

8-13-1～3 → 「指導者訓練修了章」

③教育規程 第9章 9-4-1（指導者の正装）、9-4-2（指導者の礼装）

→記載事項の変更なし

④教育規程 第9章 9-9-1, 9-9-9～14（指導者の記章）

→記載事項の変更なし

(5) 団委員研修所の運営方法

①「日程表」を配付し、3日間のだいたいの組み立てを説明する。

②特別セッションを2つ組み込んでいる。

③研修生活は自主運営とする。

時間の厳守

外出はできません

朝の散歩は「起床」時間のあとに。

④

3. まとめと確認事項

(1) 質疑応答を行い、運営方法についての参加者の疑問を解決する。